

納得できる未来にむかって

静岡市立清水第七中学校 2年 菅原 佳奈

昨年秋、私の住む地域に台風十五号が直撃し、今まで普通と思っていた生活が一変した。学区内では、二日間降り続いた雨の影響で多くの家が浸水し、学校も休校になった。豪雨被害は、私たちの生活に大きな影響を及ぼした。そして、ついに水道をひねっても水が出なくなった。それは河川が氾濫し、土砂や流木などが流入した影響で、取水口が壊れて街全体が断水したからだ。その日から飲水、トイレ、お風呂や洗濯ができなくなった。いつも水が出る生活が当たり前だと思っていた私は、水が使用できない不便さに毎日を過ごすことが本当に憂鬱になった。

その生活を救ってくれたのが税金だ。税金の使い道と言えば、私たちが受けている教育やごみの処分などの公共サービスといった身近に感じているところに使用される印象がある。しかし、今回のようないつ起きかわからない災害にも税金は使用され、多くの人々を助けてくれることがわかった。まず、取水口にある障害物の撤去作業に市から依頼された民間業者や自衛隊が出動し、最短で復旧ができるよう作業をしてくださった。そして、復旧作業の状況を市のホームページで市民に案内することで、河川まで離れていても安心して状況を知ることができた。また、初めは少なかった給水所もすぐに市外や県外から給水車が応援にきてくださった。お年寄りでも行ける範囲に給水所が増設され、次第に人々から笑顔があふれた。私たちの街は、税金によるたくさんの支援があったおかげで十三日間という短い期間で断水の完全復旧までたどり着いたのである。この時、私たちは税金という制度のありがたさに、感謝の気持ちでいっぱいになった。みんなでもとても喜んだ記憶を今でも鮮明に覚えている。

税金は、国の収入の六割にあたる大きな収入源のひとつだ。それは、たくさんの納税者によって、国民の安心安全な暮らしがあることに繋がっている。しかし、私たちはこれから少子高齢化が進み、国の税金収入が減少する時期が迫ってくることを自覚しなければならない。それは、人々の不安と直結する。

北欧のフィンランドは、税金の仕組みが日本と似ている。また、多くの国民が納税することに納得をして生活をしているので、日本よりはるかに税金が高くても国民の満足度は高い。なぜなら手厚い社会保障が国民に還元されているからだ。このように税金について国民が理解し、納得をすることがとても重要だと感じた。

未来の納税者になる私たちは、税金について関心を持って学び、知ることが必要だと考える。そして、時代の変化に対応した正しい税金の使い道に意思を持ち、納得ができる大人に成長していきたい。それが、笑顔あふれる未来の明るい日本につながるのだから。